

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児指導法演習Ⅱ Method of Teaching Children with Disabilities Ⅱ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士選択必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
障害児保育Ⅰ、障害児保育Ⅱ、障害児指導法演習Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚 登	本館2階	火・水・木・金曜日の9時～17時		授業中に指示します
授業の概要				
保育の現場では知的障害を持つ子どもだけではなく、発達障害を持つ子どもも多数存在することがわかっている。そうした子どもたちへの支援に戸惑う場面が多くあることが大きな課題として挙げられている。言葉がけの支援だけでは通じない、分かっているはずなのにできない子どもの特性を理解し、子どもが自信を失わないような支援法を、現場で多々生じるであろう場面を想定した事例を基に考える。				
授業の目標				
①「困った行動」は保育士の心構えの問題であり、子どもにとってはどう行動すべきかわからず混乱した状態であるという理解に立ち、適切な支援法を具体的に考えることができるようにする。 ②他の子どもたちへの支援も考えることができるようにする。				
授業の方法				
身近自立に関する事例、ソーシャルスキルに関する事例をもとに、望ましい支援は一つとは限らないこと、全員が自分なりの支援法を考え発表する。その際、支援法があいまいなものは授業者が質問して具体性を持たせる。				
学習の成果（学習成果）				
保育場面での「困った」行動に対し、支援者にとって困った行動としてとらえるのではなく、その子どもの成長や集団適応のきっかけになるととらえ、 ①その子どもにとって理解し、行動しやすい、具体的な対処法を複数工夫できる。 ②クラスの子どもたちにとって理解し、実行しやすい、具体的な対処法を複数工夫できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業方法、評価の説明、発表分担）、褒める支援の大切さ、小テスト			
第2回目	子どもをよく見る1（咀嚼）			
第3回目	子どもをよく見る2（子どもの絵と心理投影）			
第4回目	子どもをよく見る3（子どもの絵と発達）			
第5回目	身近自立1（靴の左右を間違えないように履かせたい）			
第6回目	身近自立2（ズボン・シャツの前後を間違えないで着させたい）			

第7回目	身辺自立3（靴下の前後を間違えずに履かせたい）
第8回目	身辺自立4（トイレの自立を促したい）
第9回目	身辺自立5（感覚過敏に留意して支援したい）
第10回目	ソーシャルスキル3（感覚障害と独自のルール）
第11回目	事例研究1（事例の理解）
第12回目	事例研究2（個別支援計画を考える）
第13回目	支援計画（個別支援計画を発表する）
第14回目	支援計画（個別支援計画を完成させる）
第15回目	障害児保育と支援機器、まとめ

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート		
調査報告書		
小テスト	6%	第1回目授業。
試験		
発表内容（態度含む）	24%	毎回（2～13）全員が自分の考えた支援法を発表します 2点×12回＝24点
その他	70%	14回目個別支援計画は15回まとめは（9点×2回＝18点）。毎時間ワークシートを用意するので、他者の発表も参考に具体的な支援法を考えてください（4点×13回＝52点）。

教科書と参考図書

毎回ワークシートを用意します。

履修上の留意点・ルール

自分の考えを文章化する際、電子辞書を使用することを薦めます。